

研究種目：基盤 C

研究期間：2007～2010

課題番号：19520534

研究課題名（和文） アジアの英語教育におけるリーダーシップ：アジアに適した教材の開発と教員養成

研究課題名（英文） Leadership in English Education in Asia: Development of a textbook in Asian context and teacher training

研究代表者

Gerald Williams（ジェラルド ウィリアムズ）

関西国際大学 教育学部 英語教育学科 准教授

研究者番号：30341035

研究代表者の専門分野：英語教育、教材開発

科研費の分科・細目：外国語教育・英語教育

キーワード：英語教育、アジア、教員相互サポート・評価、COLT、教材開発

1. 研究計画の概要

(1) アジアの英語授業内活動の見直し：教育現場・目標に適した活動の作成・選択・評価能力を持つ教員の養成

日本、ベトナム、タイの教員が使用している教材および授業活動の実施状況を観察・調査する。次に、教員へのインタビューも行い、活動・教材についての意見を聞く。そこから、自国文化圏で英語を使用した場面を豊富に含み、教員にとっても使用し易く、教育目的・目標に適した活動を、選択・評価できる力を持つよう教員を養成する。その成果は広く一般にも伝わるよう、workshop 等でも活動の評価法等を公開する。

(2) 教員間相互サポートネットワークの構築

学内・地域内の教員がお互いの授業を相互に観察し、評価し合う積極的なネットワークをアジア諸国において構築する。しかし、お互いを評価するには正当な根拠・基準が必要である。そこで the Communicative Orientation Language Teaching (COLT; (Spada and Fröhlich,1995))という授業観察法等を参考に授業の観察を行う。本研究独自の評価基準も作成し、教員がそれらの基準に従って自分自身や、仲間の教員の授業を観察・評価する方法を学び、日常的な自己評価の習慣や授業改善への意識向上につながることを目標としている。本研究メンバーが実際の指導力のためのワークショップをアジアの国々で行っていく。

2. 研究の進捗状況

ベトナム、タイ、日本での授業観察とインタビューを実施し、アジアに於ける共通の問題点を整理し、各国で教員トレーニングのた

めのワークショップを継続的に実施してきた。ワークショップでは、アジア社会に於ける英語教育の問題についてともに考え、共通する問題にどのように取り組んでいくかについて議論し、また、研究グループの研究成果として作成した、教員の自己評価ツール (TSAG: Teacher Self Assessment Guide) の活用法について話し合った。継続的にワークショップを実施することによって、参加者、各地域での研究協力者および研究グループの間の人的ネットワークの構築ができた。今後は、ワークショップの継続的な実施による人的ネットワークの拡大に加え、インターネット等を利用したネットワークの拡大に取り組んでいく必要がある。

これまでの研究で、それぞれの国で抱えている問題は異なるものの、次のような共通の問題点があることが分かっている。1) 授業準備や振り返りによる自己分析、自己評価をする時間が十分確保できない場合が多い。2) 教員は自らの教育力を向上させたいという強い意志を持っているものの、時間、費用的な制限があり、十分な研修をうけることができない環境である。3) その結果、有効的な授業改善法を見いだすことができず、必ずしも学習者の文化に即さない輸入した英語教材や文法・訳読式の教科書を使用し、教科書の指示のまま授業をしている教員が多い。このような現状で、コミュニケーションアプローチを用いた効果的な授業ができるようになるために各教員が自らの授業を分析し、問題点を発見、解決していくためのツールとして、作成した TSAG の利用の推進を目指したが、今年度は TSAG の活用法やその効果についての概念的な議論にとどまり、実際利用して

もらい、利用者から具体的なフィードバックを受けることができなかった。TSAGの普及および改訂は次年度への課題となった。また、アジアのテーマを扱った教科書の作成についても取り組んでおり、今年度中に完成させる予定である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

教科書の作成がインターネット等を利用したネットワーク作りについては若干遅れているが、ワークショップ等を通じた人的ネットワーク作りおよび教員トレーニング用のツールの作成はほぼ予定通りに進んでいる。

4. 今後の研究の推進方策

今後は以下の点に取り組んでいく。

(1)これまでの研究で得られた知見をもとに、本研究グループで開発してきた授業自己評価の為のツールを改訂し完成させる。また研究報告書を作成することで、研究の成果の共有を図る。

(2)アジアのコンテキストで用いやすい教材を完成させる。

(3)研究成果を生かした教員トレーニングのためのワークショップをアジア(韓国、日本、カンボジア、ベトナム)で実施していく。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① Keiko Yoshida, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Hector Luk, 「ベトナムにおける英語授業観察」、関西国際大学研究紀要、第9巻、2008年、33-44、査読無
- ② Jonathan Aliponga, Hector Luk, Gerald Williams, Keiko Yoshida, “Materials and teacher development in Asian context”、JALT 2007 International Conference Proceedings、2008年、1233-1240、査読：有
- ③ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Helping teachers reflect on teaching”、JALT 2008 International Conference Proceedings、2009年、E131(1-9)、査読：有
- ④ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Teacher Development in an Asian Context”、ACE 2009 Proceedings、2009年、1032-1038、査読：有

- ⑤ Jonathan Aliponga, Gerald Williams, Midori Sasaki “Using the Communicative Orientation of Language Teaching Observation Scheme (COLT) for Classroom Observations”、ACE 2009 Proceedings、2009年、510-529、査読：有

[学会発表] (計5件)

- ① Gerald Williams, Keiko Yoshida, Hector Luk, Jonathan Aliponga, “Materials and teacher development in Asian context”、JALT 2007 International Conference、2007年11月25日、国立オリンピック記念青少年総合センター
- ② Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Asian based teacher development”、JALT 2008 International Conference、2008年11月2日、国立オリンピック記念青少年総合センター
- ③ Hector Luk, Gerald Williams, Jonathan Aliponga, Midori Sasaki, Keiko Yoshida, “Teacher Development in an Asian Context”、ACE 2009、2009年10月25日、大阪ラマダホテル
- ④ Jonathan Aliponga, Gerald Williams, Midori Sasaki “Using the Communicative Orientation of Language Teaching Observation Scheme (COLT) for Classroom Observations”、ACE 2009、2009年10月24日、大阪ラマダホテル

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]